

市議会6月定例会を開催

特集

いわき市議会六月定例会が、六月八日から二十二日までの十五日間の会期で開催されました。議
会では「いわき市地域医療を守り育てる基本条例」の制定のほか、一般・特別会計を合わせて、総
額十四億四千九百九十九万九千九百九十九円の補正予算が審議され、二十五議案が可決・承認・同意されました。

市長からの行政報告

清水市長は、地域医療の確保に向けた取り組みとして、休日夜間急病診療所の移転開所と、独立行政法人労働者健康安全機構福島労災病院の移転に関する基本合意書の締結を実施し、老朽化などの問題がある両施



同定例会ではアロハシャツを着用

設の移転整備により、市民の皆さんの安全・安心の確保や地域医療の充実に努めていくことを報告しました。また、小名浜港東港地区と三号ふ頭を結ぶ小名浜マリンブリッジの完成により、同港のさらなる発展と観光交流人口の拡大に努めるとともに、客船「飛鳥II」の



小名浜港の新たなシンボル「小名浜マリンブリッジ」

七年ぶりの奇港を受け、今後も客船の寄港誘致に取り組んでいくと述べました。加えて、新たな施設整備について、災害時には救護物資の集積・分配機能を担う拠点施設となる屋内多目的広場いわきグリーンベースや、生涯学習のほか避難されている方と地域の方が



平常時は多目的広場として利用できる「いわきグリーンベース」

主な議案

交流できる場として、鹿島公民館大講堂を供用開始したことなどを報告しました。

○いわき市地域医療を守り育てる基本条例の制定について

地域医療についての基本理念を定め、市、市民の皆さん、医療機関などがそれぞれ果たすべき役割を明らかにすることで、将来にわたって、安心して良質な医療を受けられることができる体制を確保することを目的に同条例を制定しました。

○いわき市国民健康保険税条例等の改正について

地方税法施行令の一部を改正する政令が、本年四月一日に施行されたことなどに伴い、所要の改正を行いました。

主な補正予算

- ▶ 合葬式墓地整備事業費 = 1億153万円
- ▶ 震災メモリアル事業費 = 3,024万2千円
- ▶ 緊急スクールカウンセラー等設置事業費 = 1,876万4千円
- ▶ 元気な産地づくり整備事業費 = 1,361万1千円
- ▶ 国民健康保険事業特別会計（事業勘定） = 13億3,993万7千円

詳しくは六・七ページをご覧ください。

- 固定資産評価審査委員会委員選任の同意を求めることについて
- ・澤田法明（新任）
- 川前財産区管理委員選任の同意を求めることについて
- ・宇佐見薫（新任）

四倉地区まちづくり懇談会を開催

～賑わいとふれあい、笑顔とやさしさが交差する
「輝く未来に向けて復興する四倉」をめざして～



復興のまちづくりについて提案

四倉地区まちづくり懇談会を七月十一日、四倉商会館で開催しました。同懇談会では「賑わいとふれあい、笑顔とやさしさが交差する『輝く未来に向けて復興する四倉』をめざして」をテーマに、復興のまちづくりや商店街の活性化対策、漁港区域の活性化づくりなどについて、住民の皆さんと市長・関係部長が意見を交換しました。その主な内容をお知らせします。

○四ツ倉駅への跨線人道橋の整備について

【提言】居住人口が増えている四ツ倉駅西側地域と、

既存の商店街や住宅がある東側地域の連携強化に向けた、両地域を結ぶ跨線人道橋の整備について、市の考えを。

【市】西側地域と東側地域の活発な交流や連携が図られるよう、両地域を結ぶ跨線人道橋の整備に向け、調査・検討に着手しました。現在、鉄道を横断する歩行者などの現況調査や、想定される利用者を踏まえた整備位置、形状、規模などの検討を進めています。今後は、調査・検討の結果を基に、鉄道事業者と協議を行いながら、具体的な整備計画を策定します。ま



市の説明を熱心に聞く参加者

た、財源確保に向けた国との協議も進めながら、整備計画の早期実現に取り組んでいきます。

○道の駅よつくら港のサイクリング拠点としての活用について

【提言】道の駅よつくら港をサイクリング拠点として活用することは、観光振興、漁港区域周辺のにぎわい創出などにつながります。拠点として活用するには、駐輪設備や案内板の設置などの整備が必要ですが、市の考えを。

【市】従来の関公園から大久川河口付近の久之浜防災緑地まで、約五十七キロメートルのサイクリング



サイクリングイベントでは給水・給食やトイレ休憩の場に

ロード海岸線ルートの整備では、おおむね十キロメートルごとに観光施設や公園などを主要休憩施設としてこの中間地点にある景勝地や広場などを補助休憩施設として位置付けています。道の駅よつくら港については、主要休憩施設として位置付けており、サイクリング拠点としての活用を見込んでいきます。今後、漁港区域の管理者である県と協議し、自転車用駐輪器具や案内板などの整備を行い、サイクリングを通して、道の駅よつくら港のにぎわい創出や、利用者の拡大を図っていきます。

特集